



観光協会特約店①

駿河屋製菓『ココア甘納豆&お好み甘納豆』

宮前区の名産品にはどんなものがあるのだろう?

今回は、「かわさき名産品」として2009年、かわさき名産品認定事業実行委員会から“ココア甘納豆”と“お好み甘納豆”が認定された、駿河屋製菓を訪ね、女将さんの瀬戸幸子さんにお話を伺いました。

駿河屋製菓は、甘納豆の製造を創業してから来年2月19日で50周年を迎えます。

駿河屋製菓の甘納豆は、野川のお土産、川崎のお土産として使われ、美味しいとの評判が口コミで広まり、県内はもとより周辺都県からの注文も多い。店舗販売もしているが殆どが注文販売のことです。

甘納豆は、しっとり感があるのが美味しいと、賞味期限は製造後一ヶ月間、また糖度の配分も美味しさを保つ大きな要素とのことです。そのため販路を近都県どまりとし、全国展開を控えています。駿河屋製菓では、店舗への直送が多い。製造から消費者の手元に届くまでの期間をなるべく短くし新鮮な甘納豆を、より早くお客様にお届けし、美味しい賞味していただこうを、駿河屋製菓はモットーとしていました。(坪井喬記)



【ココア甘納豆】

お店に並ぶ地元農産物、地産地消

【宮前直売所】 野川



9月の日曜日、地元農産物を販売している宮前直売所(宮前区野川1018)を取材した。

(営業は日曜日、火曜日、木曜日の12時30分から17時)開店前から、多くの買い物客の列が出来、お店のスタッフが元気に開店準備をしている姿が目に入る。

12時30分、開店。棚にはトマト、大根、キャベツ、ブロッコリーなど多品目の季節の「かわさきそだち」が陳列されている。買い物客のかごはまたたく間に一杯になる。

責任者の森敬起さん(48歳)は、「生産者の顔が見え、安全でおいしい地元作物をお客様に提供している。現在4軒の農家と契約、24軒の季節物生産者にご協力をいただいている。」と語る。

「お客様から『おいしかったよ』と言われるのがとてもうれしい」と笑顔がこぼれた。(青柳和美記)



[HE-BARA NO MEGUMI]

大木養鶏場



近隣に住む主婦お勧めの直売所
「生での卵かけご飯がおいしいです」

場所：稗原交差点脇



募集 おたより

宮前区で気になる話題や宝物などの情報がありましたら、ご連絡ください。また、会員・特約店も募集中です。
みんなで楽しい紙面にしていきましょう!!

つながるみやまえ
宮前区観光協会ホームページ



<http://www.miyamae-kankou.net>

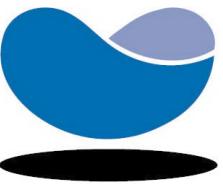
いすたた集い魅ま今創まますく自か持をすそ名でまし
まるが。・ま力す年刊しすん青り然らち肌。の店すだて私
すこ。慣レすをがも号た。ま笑柳がの残で。の思そがまかが
と宮れイ。紹、残がす顔和進豊る活動(坪い)が他区當十前
が前なア(介來り皆(宮で)美むか伝動(喬)が諸々の年
高で区いウ塩し年2様(渡前)宮さ統したいと、区内
橋き民作ト田てもケに辺区力(弘前)と文ていと、区内
弘て祭業を榮い宮月誂寛がし取区新化いと、区内
幸ホまで担二け前とま美好て材は魅い建ます。そんな情
て行し思たはのり、皆載つ
とれし編とれて頃こなり、皆載つ
し発ましま思たいはのり、皆載つ

▼編集後記

いつしょに夢づくり 宮前区観光協会

宮前の風

創刊号
2009.11



人が好き
縁が好き
まちが好き

発行：宮前区観光協会 編集・作成：宮前区観光情報取材記者

事務局：宮前区役所地域振興課(塩田)

TEL. 044-856-3135 <http://www.miyamae-kankou.net>



地域行事に積極的に参加、協力して 地域に根ざした学校つくり 県立川崎北高等学校



校歌の一節『朝日輝く 有馬の丘に ……』とあるように、閑静な高台に在る県立川崎北高等学校(八幡泰二郎校長・宮前区有馬3-22-1)。

創立は1974年、川崎市内で5番目に県立普通科高校としてつくられ多くの卒業生を輩出し、現在810名の生徒が在籍している県立普通科高校を取材訪問させていただいた。



9月の土曜日の放課後、グランドでは元気な声が飛び交い、懸命に球を追う硬式野球部員の姿があった。教室では吹奏楽部員が真剣な表情でパート練習に励む様子や軽音楽部員のドラム、ギターで奏でるサウンドに酔いしれた練習風景。



校内にいた生徒からも礼儀正しい挨拶を交わされ大感激。
学問のみならず運動部、文化部ともに素晴らしい成績を残す部活動も盛んな学校だ。地域から歓迎される学校つくりを推進し、地域行事に積極的に参加して演奏を披露し地域の人びとを楽しませている。(青柳和美記)



花便り

「ポンプと秋桜」

場所：菅生4丁目 湧き水広場

撮影：渡辺寛美

「蔵敷バス停から平瀬川沿いをゆっくり散歩して10分位、春には美しい桜並木を見ることができます。」

秋桜は宮前区の花です。

花言葉は、「乙女の恋」「純真」「調和」



影向寺の影向石

影向石(ようごうせき)は、影向寺(ようごうじ)の名前の由来となった石で、境内の一角にあります。江戸時代の初め万治年間に、当時の薬師堂が火を被ると、本尊薬師如来は自ら堂を出て、影向石の上に被災を逃れたと伝えられています。石に神仏が憑依しているとして爾來影向石と称されようになりました。当時の寺名・養光寺を、影向寺と改めた所です。

影向石の由来を次に詳しく紹介いたします。

影向寺縁起には、《天平11年（739）、光明皇后が眼病を患ったおり、聖武天皇の御夢の中に一人の僧が現れ、「武藏の国橋樹郡橋郷に靈地がある、その地に不思議な靈石がある。その石の上にはいつも聖水が湛えられている。此處に伽藍を建て、薬師如来を安置して奉るならば、皇后は平癒されるであります」と告げた。天皇は直ちに夢のお告げを実行に移し、高僧行基を当地に派遣した。行基は、天皇がみた夢のお告げのとおり当地に発見した靈石に、祈願したところ、靈験あらたかに光明皇后の眼病が快癒した。天皇の勅令により当地に伽藍が聳えたのは、翌天平12年のこと》云々と記される。



【影向石(右)と影向石碑】

影向寺の前名は養光寺だが、この寺名には、「光明皇后の眼病を癒した」との意がこめられていると考えられる、と話された加藤住職に、境内の一隅にある影向石までご案内をいただいた。

影向石は全体が丸みを帯び、最大径190cm程（高さ50cm程）の上辺は平坦で中央に窪みがあり、水が湛えられ、その靈水で洗うと眼病が治癒すると伝えられている。影向石の傍らに影向石碑がある。延享3年（1750）に和泉国の森本宜直が建立したもので、影向石の窪みに湛えられた清泉を飲んだところ医薬や医術を尽くすも埒が明かず多年患っていた眼病が治癒したことから、その神靈に感謝する旨、刻まれている。森本は、幕府の奥医師を勤めた東都法眼桂川甫筑の門人で、オランダ医学にも通じた医術師であるから、影向石への信仰の程が伺われる。

以上が影向石にまつわる奇蹟の伝説だが、加藤住職から「川崎市民ミュージアムに影向石のレプリカが展示され、影向石が三重塔の塔心礎石としてどのように活用されていたかが分かるように復元されています」と伺った。そこで同ミュージアムを訪ねると、2階常設展示室には川崎市域の古代から近代までの歴史が、民俗、原始、古代、中世、近世等に区分され、出土品やレプリカ等によって、分かりやすく展観されていた。影向石のレプリカは古代ブロックに展示され、その影向石の上には直径50cm程の丸柱（プラスチック製）が乗っている。傍らの掲示板には、「影向寺三重塔とその心柱」と題して《金堂にやや遅れて三重塔（推定）が建設された。現在は塔の内部を貫く心柱を支えた塔心礎石（影向石と称する）を残すのみであるが、その柱座から推定すると、巨大な柱がのっていたことになる。現存する奈良当麻寺東塔の心柱は影向寺の影向石のような巨大な塔心礎石の上にのっている》云々と説明されていた。

影向石のほか、影向寺には目を瞠る文化財が数々ある。

影向石が焼失を救ったと伝説の薬師如来は12世紀前半頃の制作で、影向寺の本尊である。両脇侍像は12世紀後半頃の作。薬師三尊像は重要文化財の指定を受け、文化財保護法により、防火・盗難対策について規定されていることから、通常は薬師堂の後ろにある収蔵庫に保管されていて見ることが出来ない。が、8月の施餓鬼会の日などには収蔵庫がご開帳され、拝顔することができる。収蔵庫にはほかに、薬師三尊像の両脇に二天立像、背後には薬師如来の眷属・十二神将立像が控えており、いずれも川崎市重要歴史記念物である。また、薬師堂右の太子堂には聖徳太子孝養像（川崎市重要歴史記念物）が安置されている。

秋が深まると、境内の銀杏の大木の黄葉が美しい。その銀杏の乳柱を削って飲むと乳の出がよくなるという伝説があり、「影向寺の乳イチョウ」として親しまれている。

ここでは影向石を中心に述べましたが、薬師三尊像や聖徳太子孝養像そのほか諸々について詳しくは、宮前区観光協会のホームページ【<http://www.miayamae-kankou.net>】をご覧ください。（坪井喬記）

宮前区観光協会
特約店
7社参加(2009.4)
観光協会会員には特典があります。

中国料理
嗜唯喰（シード）
土橋7-1-3
TEL.856-0100
<http://www.yukemurinosato.com>

宮前平 源泉
湯けむりの庄
宮前平2-13-3
TEL.860-2641
<http://www.yukemurinosato.com>

駿河屋製菓（有）
お好み甘納豆
芋納糖
ココア甘納豆
野川1544-12
TEL.766-7797



宮前区観光協会会長
川島芳茂さん



Q：これから抱負をお聞かせください。

A：まずは地域振興課の事務局に地域のイベント等の情報をあげてもらい観光協会として参加できそうなのは積極的に参じてゆきたい。一見、観光に関係なさそうなことでも「自分が参加してみたい、楽しそう、参加出来なくても見に行きたい」と人が思ってくれることが観光の第一歩です。鷺沼にはフロンタウンがあります。観光のひとつとして応援してゆきたいです。少年野球チーム、サッカーチームなどの団体とも交流を持ちたいです。色々なスポーツの交流試合を見に行ったり帰りに近くの名所や美味しい店に立ち寄ってみたり、買い物をする。そのようにして、多くの人に活動してもらえば、それが観光へつながるのです。色々な団体と関係を持って活動してゆく。それによって人とつながりができる、宮前区も見えてきます。ひとつでも、ふたつでも観光協会として、実行に移せるような目的を作り出したいです。やっと基礎が出来ました。これからだと思います。

Q：会長から見た宮前区のイメージは・・・

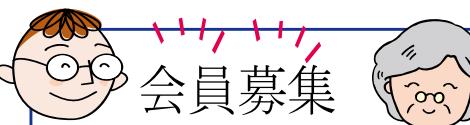
A：若い街、緑も多くあります。広い年齢層の方がお住まいです。希望に溢れた生活感を感じる雰囲気。街が活性化していることを感じる。住む人が明るく、とにかく祭り好き。一人じゃ寂しいですよ。大勢の中にいる時は楽しいです。

Q：好きな場所は・・・

A：東高根森林公园。週に一度は行き、駐車場に止めて散歩します。2500歩ほど歩きます。

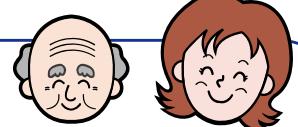
【取材後書き】

ここまでお話を伺ってきたところ、時々「私などもう引退のとしですが・・・」とあっしゃっていましたが、とんでもないです。とにかく前向きな方です。会長自身も祭り好きで、区民際の実行委員もなさっています。そして、障がい者の方たちが地域に根付いた活動をしている「社会福祉法人 みのり会」の理事長でもあります。今回の取材はパン工房「ひよこ」の美味しいパンの香りに包まれて行いました。宮前区のキヤッチフレーズ「人が好き、みどりが好き、街が好き」その言葉がピッタリの方でした。（渡辺寛美記）



会員募集

いっしょに夢づくり



川崎市内には、地域の宝を市内外に宣伝し来訪者を増やし地域の活性化を図るために多くの観光協会が設立されていますが、宮前区内には観光協会がありませんでした。

宮前区には、名所遺跡・文化財・郷土芸能・地域産業など、地域の資源が豊富にあります。このようなことから、平成19年に観光協会を設立し、地域における観光事業の振興を図り、郷土・文化の発展に向けて事業展開することにより、地域の皆様が誇りと愛着を持てる、活力あふれる宮前区を創造していきたいと考えてあります。

宮前区観光協会にご賛同いただき、ご入会いただける方は、下記事務局までご連絡願います。
会費（年額）は個人会員1口 1,000円

団体会員1口 5,000円

法人会員1口 10,000円

なお、会員様におかれましては、宮前区内特約店（7店）にてお買い物の際は、各種サービスを受けることができます。

申し込み先：宮前区役所地域振興課（塩田）

電話044（856）3135 FAX 044（856）3119



チーズ＆プリン工房
かとるかーる
神木本町4-17-1
TEL.877-2823

川崎市住宅相談登録店
高橋工務店
新築・リフォーム・エコハウス
菅生2-21-12
TEL.977-2348

生花
ギフトフラワー
ダンデライオン
土橋6-3-20-101
TEL.877-6446



森永宮前
ミルクセンター
蔵敷販売所
菅生5-3-8
TEL.977-3646